

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 元年 11月 25日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473300741		
法人名	医療法人 北原会		
事業所名	グループホーム大野		
所在地	広島県廿日市市大野67の1 (電話) 0829-56-3333		
自己評価作成日	令和元年10月21日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3473300741-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和元年11月15日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・山々に囲まれ静かな場所にあり、鳥のさえずりや四季折々の草花を楽しむことができます。・当ホームの理念である「家庭的な雰囲気作り」「傾聴」「地域に愛されるホーム作り」をキーワードに穏やかな生活が送れるように、日々取り組んでいます。・季節の行事に合わせ、旬の食材を活かして、手作りの食事を提供しています。・個々の思いに寄り添い、その人にあったプログラムの工夫をしています。・経営母体が病院なので、日頃より気軽に医療相談が出来、緊急時の対応も可能です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

敷地内の母体法人病院を中心に連携を図り、医療・福祉サービスを提供している。また、利用者の健康管理や病状変化に於いても即対応できる体制が整っている。本人の病状や身体状況の変化により、ホームでの生活が難しくなった場合は、法人内でのバックアップ体制が整っていることも、利用者および家族にとっては安心して繋がっている。職員同士が話しやすい雰囲気あり、意見・要望を管理者は前向きに受け止め、運営に活かしていく体制が見られる。就業環境の整備にも力を入れており、職員が定着出来るよう取り組んでいる。理念：①家庭的な雰囲気づくり、②傾聴、③地域に愛され信頼されるホームづくりを念頭に置き、利用者の笑顔溢れるホームづくりを目指している。利用者がその人らしく過ごせるよう医療を含むチームケアの向上に尽力している。
--

自己評価	外部評価	項目(I ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	「家庭的な雰囲気作り」「傾聴」「地域に愛されるホーム作り」この理念を玄関・廊下に掲示し、また全職員が名札の中に入れて、振り返り出来るよう心掛けている。理念をもとに年間目標を立てて、実践に繋げていけるよう、今後も努力していきたい。	職員の名札の裏に、事業所の理念を記載し、個々が都度振り返り理念に沿った支援が出来るよう努力している。理念に沿った介護が出来るように全職員で年間目標を掲げ取り組んでいる。今後は更に毎月ミーティングで振り返りをするように検討している。	今後は、①毎日理念を唱和することで常に職員が意識できるようにする、②毎年、地域状況、利用者の状況を踏まえ、全職員で年間目標を作り上げ、実行・検証（毎月ミーティングなど）を通して、理念に沿ったケアができていくか振り返りを行うことにより、理念の浸透、共有化に繋がると期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常的な交流は出来ていないが、季節の行事開催時には、入居者の家族やその関係者など地域の方々の参加を広く募っている。また廿らっボランティア等のホームへの受け入れ体制はできている。	以前、敷地内にある法人病院の外来患者を来訪する取り組みを考えたが、個人情報のこともあり断念した経緯がある。少しでも関りを増やす取り組みとして、2年前（H29）に、廿らっプラチナボランティア連絡会が発足し、事業所として登録した。	今後は、更に地域との関りを深める取り組みとして、①母体法人病院と一緒に連携を図り、入居相談、介護相談、健康相談、イベント（夏祭り、秋祭り）など実施する、②運営推進会議などで、地域情報を得る中で、地域に出向き、積極的に地域とのつきあいができる体制づくりを望みます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	職員が日頃の業務や研修などで培ってきた知識や技術を、ホーム内で話し合うことは行っているが、実際に外部で広めていくまでには至っていない。今後は推進会議の出席者を含め、地域の人々への広報を工夫していく。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、状況報告をするとともに、家族、行政関係者、医療職などと専門性も活かした意見交換を積極的に行い、また災害時の対策など、重要な情報の収集もしている。	当会議には、家族、市担当者、地域包括支援センター職員、母体法人病院などの多様なメンバーの参加にて、事業所の近況報告、情報の提供や意見交換が行われている。参加者からの意見で、外出を増やす取り組みとして、外出支援を取り組んだ経緯がある。	家族参加が特定者（2人）である。今後は、①年度毎にメンバーの変更、開催日時を検討、②やむを得ず不参加の家族へ議事録を送付する、③家族が参加できる行事案内、④会議の目的を説明、抽出方法の仕方（来訪時に意見を聴く方法など）に工夫し、それらの意見を踏まえた取り組みを望みます。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センター主催の地域ケア会議に出席して、事例検討などで意見交換をし、高齢者支援について考える機会を持ち、サービスの質の向上に近づけている。また、運営推進会議でも積極的に情報交換をしている。	地域包括支援センター主催の地域ケア会議に2カ月に1回参加している。市担当者とは直接出向き相談したり、密に連絡を取り合い、協力関係を築くようにしている。運営推進会議に参加をして頂き、ホームでの取り組み状況を報告することで、アドバイス（身体拘束など）を頂くこともある。	

自己評価	外部評価	項目(I ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	何が身体拘束になるかを職員全体で深く考え、意識を共有して、制約を加えないケアを目指し、認知症介護実践研修などにも積極的に参加している。施設の構造上、施錠はしているが、状況に応じて柔軟に取り組んでいる。やむを得ず拘束をする場合には、身体拘束適正化委員会にて協議をしている。	法人内研修を年1回行っている。3か月毎の身体拘束委員会では、母体法人病院の医師、看護師、理学療法士などが集まりケース検討など行い、職員間で更に意識を高めている。やむを得ず身体拘束する事例があれば、家族の意向を踏まえ月1回の評価を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修に参加したり、参加した職員による伝達講習などで、高齢者虐待防止法等について学んでおり、誰もが虐待への気付きが深まるよう努力している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護や成年後見制度に関する研修には出来る限り参加して、職員間の意識を高めている。家族にも分かり易く説明し、必要に応じて制度の利用がスムーズにできるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に詳しく説明をし確認を行っており、規約の改正等があれば、必ず書面を作成し、ご家族へ説明・確認を行っている。また疑問や質問には納得がいくまで丁寧な説明するように心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者の訴えには、話しやすい環境のもと傾聴をし、管理者を中心に対応策を検討している。家族へは、面会時に希望・要望を聞き、随時対応するとともに、外部の相談窓口の紹介も行っている。また目安箱の設置で、直接面談・相談しにくい方にも配慮をしている。	何でも話し合える雰囲気づくりや訪れやすい環境整備に心がけている。要望や意見については、連絡ノートを活用し、情報共有し、早めに対応している。年1回嗜好調査を行い、メニューの反映を実施したり、外出の企画を増やして欲しい要望から、個人外出を充実した経緯がある。	

自己評価	外部評価	項目(I ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝のミーティングや昼休みなど、自由に意見や提案を聴く機会を作り、日々の業務中でも気付きを話し合っ、行事やレクリエーションなどの意見を取り入れている。また全職員が、気軽に意見を言い易い環境を作っている。	管理者は、職員の想いの理解に努め、改善に繋げている。利用者のケアを充実したいケース検討の話が多く、食事時の姿勢保持で椅子の工夫、足台を設置など行っている。勤続年数が長い職員が多く、今月（R1.11）から介護リーダーを配属し、働きやすい職場風土を作りあげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員一人ひとり、勤務体制・契約条件が異なるため、それぞれに応じた職場環境を整えている。また個々に合った研修を勧めて、向上心を持って仕事に取り組めるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の能力の段階に応じて、先輩職員の指導を付けて、入居者も職員も不安が解消できるようにしている。また研修には積極的に参加し、情報を共有して、業務がスムーズに行えるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修や地域ケア会議に参加し、同業者との交流を図っている。またホーム見学、施設見学など相互訪問し、情報交換を行い、サービスの質の向上に向けて意見交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居相談時や自宅を訪問した際には、本人、家族と別々に話を聞くとともに、入居後もしっかりと本人の思いを聴き、出来るだけ早く信頼関係が築けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(I ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居相談時から、困っている事、不安に思っている事などを傾聴し、ねぎらいの言葉を伝え、話しやすい環境作りをするとともに、入居後もサポートできるように信頼関係作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	不安な気持ちで、来居や電話相談をされた家族に、いろいろなサービスの情報提供をし、多職種とも連携して、本人に必要なと考えられるサービス等を確認・支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩として入居者を敬い、出来ないことに注目するのではなく、出来る事を職員とともに、または自身で行い、職員は出来る限り寄り添って、交流を深めるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居したことで、家族との距離が離れないよう、職員と家族は情報を共有し、家族の協力ができないことを共有している。また本人の写真を同封した近況報告もしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族や知人の面会は自由で、いつでも来られるようにしている。家族への電話の支援も継続し、関係が途切れないように努めている。しかし馴染みの場所への外出は少しずつ難しくなっている。	これまでの生活や大切にしてきた繋がりを尊重し、面会など旧知の関係性を紡いでいる。家族の協力を頂き、お墓参り、美容院、病院受診、外食に行くなど取り入れている。利用者の高齢化により、外出の機会が少なくなってきた。	

自己評価	外部評価	項目(I ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	談話室の座席の状態やテーブルの配置等を常に考え、入居者が楽しめる雰囲気を作っている。職員も間に入って会話を楽しんだりして、入居者が孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	事情があつて退居することになった家族に対しても、引き続き気軽に立ち寄れるように声掛けをしたり、時には相談にのっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の会話や声掛けの際、入居者の表情や態度から思いを引き出し、気持ちや状態を把握できるよう努めている。また職員は個別カンファレンスを開催し、情報の共有し、思いの把握を図っている。	理念にある”傾聴”をもとに、本人の思いや希望などを聴き取り、カンファレンス時は聴き取った職員が参加している。利用者の日々の表情や様子など意識し個々のサインを見逃さない、個人の思いを大事にした取り組みがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の聞き取りや、以前利用していたサービスの情報提供などをもとに、その人の生き立ちや育ってきた環境を理解し、これまでの暮らしを出来る限り変えないようなサービスの提供を心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の暮らしを観察し記録して、把握できるよう努めている。また申し送りノートの活用により、入居者一人ひとりの現状を共有できるようにしている。定期的なアセスメントの情報も、職員間で共有している。		

自己評価	外部評価	項目(I ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護支援専門員を中心に、本人、家族、必要な関係者と話し合い、6ヶ月ごとに介護計画書を作成している。個々のニーズや身体状況に変化があり、介護計画に記載した支援が出来なくなった場合には、速やかに担当者会議を開催し、介護計画の見直しを行っている。</p>	<p>アセスメントを丁寧にし、本人・家族などを加味し、ニーズに沿った個々の暮らしがスムーズに営めるよう計画作成している。週3回医師の往診があり、医師や看護師との連携を図り、医療情報など把握する中で、介護計画の見直しを随時行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日常の様子を個別に記録に残し、その情報は職員間で共有し、介護計画作成の際にはその情報を生かしている。また申し送りノートやカンファレンスでの意見交換も活用し、取り組んでいる。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>医療ニーズに対しては、協力医療機関との協力体制ができているため、速やかに対応できる。その他、成年後見制度の利用もあるが、地域との連携や、他のサービスとの調整には不十分などところがある。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>家族との交流が中心となっているが、地域資源を活用して、本人の豊かな暮らしを支えるために、推進会議等を通じた意見交換や情報発信により力を入れていく。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>週3回かかりつけ医の訪問診療をはじめ、常時協力病院との連携体制が整っている。他科受診の選択も自由に出来るようにしており、本人、家族の意向を大切にしている。</p>	<p>入居時に相談し、かかりつけ医を決めている。協力病院以外の受診については、家族対応をお願いしている。協力医の週3回往診、看護師への相談など、適切な医療が受けられる体制で、緊急時の連絡体制も整っている。個々の健康状況は、申し送りノート、ケース記録に記載し、情報共有している。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(I ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職が申し送りや相談の中で、気づきを速やかに看護師に伝え、看護師は本人の状態を適確に医師に伝え、症状が悪化しないように早めの対策をとっている。また24時間いつでも連絡がとれる体制もとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、看護情報提供書や介護計画書など必要な情報を提供して、本人の生活スタイルが大きく変化しないように、病院と連携している。また面会に出向いたり、退院が近づくと退院後の生活がスムーズに送れるように情報の共有をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に、本人・家族・主治医で重度化した場合の話し合いの場を設けており、重度化したり、状態に変化があった場合には、家族、主治医と協議し、隣接する協力病院への転院等の対応を行なっている。	事業所として、看取りはしない方針である。入居時や、本人の状況に応じて、家族に今後の方針について聴き取りをしている。重度化や終末期の時期となれば、主治医に意見を聴き、家族、主治医と協議し、敷地内にある母体法人病院への転院等の対応を行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	定期的に、応急手当や初期対応の訓練は行っていないが、急変時や事故発生時は、協力病院の医師の応援体制や管理者、看護師と緊急連絡がつくようになっており、また、連絡がつくまでの応急手当や、初期対応の訓練を実施に向けて努力している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回協力病院と合同で防災訓練を行ない、全職員が入居者の安全確保について、意識を深めている。災害時には、協力病院の近隣職員の応援体制や、緊急連絡マニュアルの整備が出来る。	運営推進会議で話し合いをしている。昨今の災害状況を踏まえ、地域ケア会議での話し合いや、母体法人病院では備蓄品を準備された。同敷地内の母体法人病院と合同で年2回、防災避難訓練を実施し、協力関係を築きながら職員間で意識を深めている。	

自己評価	外部評価	項目(I ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の人格を見極め、自尊心を損ねないよう努力している。特にご家族との面会時の談話場所や、排泄時のケア方法など、プライバシーに留意した対応をしている。	法人内の接遇研修を実施している。日々の生活において利用者の尊厳を守り、言葉掛けなど礼節をわきまえた対応を心がけている。特に排泄時の声掛けは十分に気を付けた対応をしている。職員は、利用者に対し、命令、指示することなく言葉遣いや口調に日常的に気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人が思いや希望を自由に話し、また本人が選ぶ事が出来るような雰囲気作りに努めている。日々の何気ない会話の中に、本人の気持ちが汲み取れるような支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個別性という観点から、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、一人ひとりのペースに合わせた支援を心がけている。またその人らしい生活習慣を把握すると共に、日課などで続ける努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の希望により、家族と出かけた時、定期的な訪問利用している。また職員と一緒に和やかな雰囲気の中で、その日の服を選んだり、化粧などの相談にも乗っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	嗜好調査をして、苦手な食材の変更や、味付け、形態を工夫している。季節ごとの行事では、ちらし寿司や旬のものを1~2品増やすなどしている。テーブル拭き等は入居者に手伝ってもらうことはあるが、準備や片付けは職員が行なっている。	栄養価も考慮した食事提供をしている。食事はすべて、手作りにて行い、季節感のある食材や彩りを工夫し、1~2品増やすなどしている。月1回の体重測定や、年1回嗜好調査を実施している。母体法人病院から管理栄養士のアドバイスを受ける体制がある。	

自己評価	外部評価	項 目(I ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量及び水分量は、毎日記録に残しており、必要に応じて協力病院の医師や管理栄養士に情報を提供、助言をもらっている。水分摂取は気温・湿度に合わせて、入浴後やおやつ時にも積極的に勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	起床後と毎食後、1日4回の口腔ケアを職員の誘導で行っている。1人でのケアが難しい入居者には声かけ、介助をしている。義歯は専用の洗浄剤で、毎夕食後消毒している。必要に応じて、訪問歯科や外部歯科医の受診を勧めることもある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	必要に応じて、トイレ誘導表の作成、夜間のPトイレ使用など、個々のパターンや時間などを把握し、全職員が共有して、出来る限りトイレにて自然な排泄の支援をしている。	必要に応じて、トイレ誘導表を活用し、排泄の状況や間隔を全員が把握できるようにし誘導や介助を行っている。身体状況に応じて、ベッド近くに、ポータブルトイレを設置している。食物繊維がとれるように、献立を考えたり、レクリエーションにおける軽運動をし、便秘予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便記録表を作成しており、必要に応じて看護師に相談し、看護師は、腹部の聴診や体調をみながら医師に報告し、指示や助言を受けている。またヨーグルトなどの食材利用や、レクリエーションにおける軽体操など、便秘予防に向けた取り組みを心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的に入浴日を決めているが、その日の心身状態に合わせ、曜日や時間の変更をして柔軟に入浴支援をしている。体調不良で入浴できない時も、清拭、足浴などで対応している。	週2～3回のペースで入浴機会を設け、時間は14時～16時の間で行っている。本人の身体機能によるが夏場は、希望があれば毎日シャワー浴も可能としている。入浴時には、皮膚トラブルが無いかチェック表をもとに確認している。入浴時は利用者と職員の個別の関りができ、会話が弾むことが多い。	

自己評価	外部評価	項目(I ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>一人ひとりの就寝時間、起床時 間に合わせ、声かけ支援をしてい る。快適に眠ることが出来るよう に、空調、照明にも配慮している。 昼寝も要望に応じて対応してい る。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症状 の変化の確認に努めている。</p>	<p>個々の服薬管理表を作成して、飲 み忘れ防止に努めると共に、処方 された薬は申し送りノートや個々 のケース記録に、理由や用法、副 作用などの注意点を記入し、情 報が共有できるようにしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生活 歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援を している。</p>	<p>塗り絵、パズル、歌など好きな事 に取り組んでもらうと同時に、季 節の行事を取り入れて、変化ある 生活支援を心がけている。また洗 濯物干し、洗濯物たたみ等の役割 を持ってもらい、一人ひとりの個 性が活かせるような支援をしてい る。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう支 援に努めている。また、普段は行 けないような場所でも、本人の希 望を把握し、家族や地域の人々と 協力しながら出かけられるように 支援している。</p>	<p>暖かい日にはホームの庭や、隣 接する病院の中庭を散歩したり、 春になれば、庭の桜で花見をする など楽しんでいる。その他、ご家 族との外出・外食など、積極的に 支援しており、季節に合わせた外 出支援も実施している。</p>	<p>家族の協力で、外出（お墓参り、 美容院、病院受診、外食など）を する利用者もいる。敷地内では、 家庭菜園を行っている。今年（R 1.6）に、ルールを決めて、外出 支援（2人程度で、喫茶や買い物 など楽しむ）を増やす取り組みで 2回実施したが、車両の都合によ り、中断した経緯がある。</p>	<p>外出は、心と身体に刺激を与え、 季節の変化を肌で感じることが できる良い機会になります。今 後は、年間計画を作成し、実施す る必要性や、また中断した外出支 援を再開し、利用者の喜びを増 やす取り組み、個別の希望に沿 う支援をされることを期待しま す。</p>
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援して いる。</p>	<p>本人の状況や希望に則して、自 己管理の支援をしている。管理が 難しい方には、ご家族、成年後 見人等と話し合い、状況に応じた 対応をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(I ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	個別対応をしているが、連絡が難しい入居者には、管理者が代行している。手紙は自由にやり取りできる支援をしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間には、季節感のある貼り絵、入居者やご家族の作品、行事の写真などを展示し、庭からは、四季折々の花が楽しめるなど、明るく心地よい空間作りを心がけている。また空調設備・照明・カーテンで室温・明るさや光の調整を行っている。	入院病棟を改装しているため、冷たい感覚にならないように、大型施設にみられる白っぽく明るすぎないように、木目調を取り入れたつくりで家庭的雰囲気を作りだすように工夫している。利用者と一緒に季節毎の作品づくりをされ、壁面に飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールの広いテーブルで、一人ひとり自由に過ごせるような支援をしている。テーブルいっぱいに新聞を広げて読む方、パズルやクロスワードを楽しむ方、2~3人で会話をする方など、自由に過ごせる居場所を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室の入り口には手作りの飾りを貼り、それぞれの個性を作っている。また居室内には、馴染みの家具を持ち込んだり、家族写真を飾ったりして、それぞれがくつろげる工夫をしている。	各居室の入口に手作りの飾りをして識別しやすく工夫し、家庭に居る時のように落ち着いて過ごせるようにしている。入居前には、ホーム見学をして頂き、他の居室を見て参考にして頂いている。趣味趣向を活かし個々の生活スタイルに沿ったスペースづくりを心がけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下・トイレ・ホールに付けた手すりにより、安全で自立した移動が出来るよう工夫している。またトイレや居室には、表札や案内板をつけ、場所を明確にしている。		

V アウトカム項目(I ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(Ⅱユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「家庭的な雰囲気作り」「傾聴」「地域に愛されるホーム作り」この理念を玄関・廊下に掲示し、また全職員が名札の中に入れて、振り返り出来るよう心掛けている。理念をもとに年間目標を立てて、実践に繋げていけるよう、今後も努力していきたい。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常的な交流は出来ていないが、季節の行事開催時には、入居者の家族やその関係者など地域の方々の参加を広く募っている。また甘らつボランティア等のホームへの受け入れ体制は出来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	職員が日頃の業務や研修などで培ってきた知識や技術を、ホーム内で話し合うことは行っているが、実際に外部で広めていくまでには至っていない。今後は推進会議の出席者を含め、地域の人々への広報を工夫していく。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、状況報告をするとともに、家族、行政関係者、医療職などと専門性も生かした意見交換を積極的に行い、また災害時の対策など、重要な情報の収集もしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域包括支援センター主催の地域ケア会議に出席して、事例検討などで意見交換をし、高齢者支援について考える機会を持ち、サービスの質の向上につなげている。また、運営推進会議でも積極的に情報交換をしている。		

自己評価	外部評価	項目(Ⅱユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	何が身体拘束になるかを職員全体で深く考え、意識を共有して、制約を加えないケアを目指し、認知症介護実践研修などにも積極的に参加している。施設の構造上、施錠はしているが、状況に応じて柔軟に取り組んでいる。やむを得ず拘束をする場合には、身体拘束適正化委員会にて協議をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修に参加したり、参加した職員による伝達講習などで、高齢者虐待防止法等について学んでおり、誰もが虐待への気付きが深まるよう努力している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護や成年後見制度に関する研修には出来る限り参加して、職員間の意識を高めている。家族にも分かり易く説明し、必要に応じて制度の利用がスムーズにできるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に詳しく説明をし確認を行っており、規約の改正等があれば、必ず書面を作成し、ご家族へ説明・確認を行っている。また疑問や質問には納得がいくまで丁寧な説明するように心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者の訴えには、話しやすい環境のもと傾聴をし、管理者を中心に対応策を検討している。家族へは、面会時に希望・要望を聞き、随時対応するとともに、外部の相談窓口の紹介も行っている。また目安箱の設置で、直接面談・相談しにくい方にも配慮をしている。		

自己評価	外部評価	項目(Ⅱユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝のミーティングや昼休みなど自由に意見や提案を聞く機会を作り、日々の業務中でも気付きを話し合っ、行事やレクリエーションなどの意見を取り入れている。また全職員が、気軽に意見を言い易い環境を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員一人ひとり、勤務体制・契約条件が異なるため、それぞれに応じた職場環境を整えている。また個々に合った研修を勧めて、向上心を持って仕事に取り組めるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の能力の段階に応じて、先輩職員の指導を付けて、入居者も職員も不安が解消できるようにしている。また研修には積極的に参加し、情報を共有して、業務がスムーズに行えるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修や地域ケア会議に参加し、同業者との交流を図っている。またホーム見学・施設見学など相互訪問し、情報交換を行い、サービスの質の向上に向けて意見交換をしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居相談時や自宅を訪問した際には、本人、家族と別々に話を聞くとともに、入居後もしっかりと本人の思いを聴き、出来るだけ早く信頼関係が築けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(Ⅱユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居相談時から、困っている事、不安に思っている事などを傾聴し、ねぎらいの言葉を伝え、話しやすい環境作りをするとともに、入居後もサポートできるように信頼関係作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	不安な気持ちで、来居や電話相談をされた家族に、いろいろなサービスの情報提供をし、多職種とも連携して、本人に必要なと考えられるサービス等を確認・支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩として入居者を敬い、出来ないことに注目するのではなく、出来ることを職員とともに、または自身で行い、職員は出来る限り寄り添って、交流を深めるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居したことで、家族との距離が出来ないように、職員と家族は情報を共有し、家族の協力ができないことを共有している。また本人の写真を同封した近況報告もしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族や知人の面会は自由で、いつでも来られるようにしている。家族への電話の支援も継続し、関係が途切れないように努めている。しかし、馴染みの場所への外出は困難になっている。		

自己評価	外部評価	項 目(Ⅱユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	談話室の座席の状態やテーブルの配置等を常に考え、入居者が楽しめる雰囲気を作っている。職員も間に入って会話を楽しんだりして、入居者が孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	事情があつて退居することになった家族に対しても、引き続き気軽に立ち寄れるように声掛けをしたり、時には相談に乗っている。		
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の会話や声掛けの際、入居者の表情や態度から思いを引き出し、気持ちや状態を把握できるよう努めている。また職員は個別カンファレンスを開催し、情報を共有し、思いの把握を図っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の聞き取りや、以前利用していたサービスの情報提供などをもとに、その人の生き立ちや育ってきた環境を理解し、これまでの暮らしを出来る限り変えないようなサービスの提供を心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の暮らしを観察し記録して、把握できるよう努めている。また申し送りノートの活用により、入居者一人ひとりの現状を共有できるようにしている。定期的なアセスメントの情報も、職員間で共有している。		

自己評価	外部評価	項目(Ⅱユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護支援専門員を中心に、本人、家族、必要な関係者と話し合い、6ヶ月ごとに介護計画書を作成している。個々のニーズや身体状況に変化があり、介護計画に記載した支援が出来なくなった場合には、速やかに担当者会議を開催し、介護計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常の様子を個別に記録に残し、その情報は職員間で共有し、介護計画作成の際にはその情報を生かしている。また申し送りノートやカンファレンスでの意見交換も活用し取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	医療ニーズに対しては、協力医療機関との協力体制ができているため、速やかに対応できる。その他、成年後見制度の利用もあるが、地域との連携や、他のサービスとの調整には不十分などところがある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	家族との交流が中心となっているが、地域資源を活用して、本人の豊かな暮らしを支えるために、推進会議等を通じた意見交換や、情報発信により力を入れていく。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	週3回かかりつけ医の訪問診療をはじめ、常時協力病院との連携体制が整っている。他科受診の選択も自由にできるようにしており、本人、家族の意向を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目(Ⅱユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職が申し送りや相談の中で、気づきを速やかに看護師に伝え、看護師は本人の状態を適確に医師に伝え、症状が悪化しないように早めの対策をとっている。また24時間いつでも連絡がとれる体制もとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、看護情報提供書や介護計画書など必要な情報を提供して、本人の生活スタイルが大きく変化しないように、病院と連携している。また面会に出向いたり、退院が近づくと退院後の生活がスムーズに送れるように情報の共有をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に、本人・家族・主治医で重度化した場合の話し合いの場を設けており、重度化したり、状態に変化があった場合には、家族、主治医と協議し、隣接する協力病院への転院等の対応を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に応急手当や初期対応の訓練は行っていないが、急変時や事故発生時は、協力病院の医師の応援体制や管理者、看護師と緊急連絡がつくようになっており、また、連絡がつくまでの応急手当や、初期対応の訓練を実施に向けて努力している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回協力病院と合同で防災訓練を行い、全職員が入居者の安全確保について、意識を深めている。災害時には協力病院の近隣職員の応援体制や、緊急連絡マニュアルの整備ができています。		

自己評価	外部評価	項目(Ⅱユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の人格を見極め、自尊心を損ねないように努力している。特にご家族との面会時の談話場所や、排泄時のケア方法など、プライバシーに留意した対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人が思いや希望を自由に話し、また本人が選ぶことが出来るような雰囲気作りに努めている。日々の何気ない会話の中に、本人の気持ちが汲みとれるような支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個別性という観点から、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、一人ひとりのペースに合わせた支援を心がけている。またその人らしい生活習慣を把握するとともに、日課などで続ける努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の希望により、家族と出かけた時、定期的な訪問理容を利用している。また職員と一緒に和やかな雰囲気の中で、その日の服を選んだり、化粧などの相談にも乗っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	嗜好調査をして、苦手な食材の変更や、味付け、形態を工夫している。季節ごとの行事では、ちらし寿司や旬の物を1~2品増やすなどしている。テーブル拭き等は入居者に手伝ってもらうことはあるが、準備や片付けは職員が行っている。		

自己評価	外部評価	項 目(Ⅱユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量及び水分量は、毎日記録に残しており、必要に応じて協力病院の医師や管理栄養士に情報を提供、助言をもらっている。水分摂取は、気温・湿度に合わせて、入浴後やおやつ時にも積極的に勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	起床後と毎食後、1日4回の口腔ケアを職員の誘導で行っている。1人でのケアが難しい入居者には声掛け、介助をしている。義歯は専用の洗浄剤で、毎夕食後消毒している。必要に応じて、訪問歯科や外部歯科医の受診を勧めることもある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	必要に応じて、トイレ誘導表の作成や夜間のPトイレ使用など、個々のパターンや時間などを把握し、全職員が共有して、出来る限りトイレにて自然な排泄の支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便記録表を作成しており、必要に応じて看護師に相談し、看護師は、腹部の聴診や体調をみながら医師に報告し、指示や助言を受けている。またヨーグルトなどの食材利用やレクリエーションにおける軽体操など、便秘予防に向けた取り組みを心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的に入浴日を決めているが、その日の心身状態に合わせ、曜日や時間の変更をして柔軟に入浴支援をしている。体調不良で入浴できない時も、清拭、足浴などで対応している。		

自己評価	外部評価	項 目(Ⅱユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	一人ひとりの就寝時間、起床時 間に合わせて、声掛け支援をし ている。快適に眠ることができ るように、空調、照明にも配慮 している。昼寝も要望に応じて 対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	個々に服薬管理表を作成して、 飲み忘れ防止に努めるとともに 、処方された薬は申し送りノート や個々のケース記録に、理由や 用法、副作用などの注意点を記 入し、情報が共有できるように している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	塗り絵、パズル、歌など好きな ことに取り組んでもらうと同時 に、季節の行事を取り入れて、 変化のある生活支援を心がけて いる。また洗濯物干し、洗濯物 たたみ等の役割を持ってもら い、一人ひとりの個性が活かせ るような支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	暖かい日には、ホームの庭や隣 接する病院の中庭を散歩したり 、春になれば庭の桜で花見をし るなど、楽しんでいる。その他 、ご家族との外出・外食など積 極的に支援しており、季節に合 わせた外出支援も実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	本人の状況や希望に則して、自 己管理の支援をしている。管理 が難しい方には、ご家族、成 年後見人等と話し合い、状況に 応じた対応をしている。		

自己評価	外部評価	項 目(Ⅱユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	個別対応をしているが、連絡が難しい入居者には、管理者が代行している。手紙は自由にやり取りできる支援をしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間には季節感のある貼り絵、入居者やご家族の作品、行事の写真などを展示し、庭からは、四季折々の花が楽しめるなど、明るく心地よい空間作りを心がけている。また空調設備・照明・カーテンで室温・明るさや光の調整を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールの広いテーブルで、一人ひとり自由に過ごせるような支援をしている。テーブルいっぱいに新聞を広げて読む方、パズルやクロスワードを楽しむ方、2~3人で会話をする方など、自由に過ごせる居場所を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室の入り口には手作りの飾りを貼り、それぞれの個性を作っている。また居室内には、馴染みの家具を持ち込んだり、家族写真を飾ったりして、それぞれがくつろげる工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下・トイレ・ホールに付けた手すりにより、安全で自立した移動が出来るよう工夫している。またトイレや居室には、表札や案内板をつけ、場所を明確にしている。		

V アウトカム項目(Ⅱユニット)) ← 左記()内へユニット名を記入願います	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム大野

作成日 令和2年1月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	昨年からの目標である理念の唱和や、年間目標の作成が出来ていない。	①理念の唱和をする。 ②理念に沿った年間計画を立てる。	毎朝の申し送り時に理念の唱和をする事で、意識づけと振り返りを行う。 1月中に年間計画を作成し、月に一回のリーダー会議で具体的なことを進めていく。	R2年1月1日～ R2年6月30日 R2年7月1日～ R2年12月31日 (半年ごとに評価を行う)
2	2	地域との連携・交流が出来ていない。	①地域との関わり、交流が出来る環境作りをしていく。	ケア会議や研修を通じて町内会、老人会等の地域資源に働きかけ、交流ができるようにしていく。	R2年1月1日～ R2年6月30日 R2年7月1日～ R2年12月31日 (半年ごとに評価を行う)
3	4	運営推進会議の出席者に地域住民の参加がなく、出席する家族も固定化している。	①運営推進会議の内容の見直しをし、グループホームを広く理解してもらおう。	・運営推進会議に地域の人参加出来る体制作りをする。 ・家族に主旨を説明し広く参加の声かけをしていく。 ・現在の会議内容に加え、行事予定も伝えていく。	R2年1月1日～ R2年6月30日 R2年7月1日～ R2年12月31日 (半年ごとに評価を行う)
4	18	外出や行事が積極的に行われていない。	①外出や行事の年間計画を立て、家族との交流の機会を作る。 ②日々のレクリエーションの工夫をしていく。	・年間行事、外出の計画を立てその計画に沿って実施していく。 ・家族に声をかけ、入居者と楽しめる行事を開催する。 ・毎日の体操の内容を変える。(リズム体操、タオル体操等) ・レクリエーションの内容について職員間で協議する。	R2年1月1日～ R2年6月30日 R2年7月1日～ R2年12月31日 (半年ごとに評価を行う)
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。